

2025-2026

AMEDのご案内

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development



8つの統合プロジェクトのもとで、 基礎から実用化まで一貫した 医療分野の研究開発の推進に総力を注ぐ



国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）は、国が定める「健康・医療戦略」の下、我が国における医療分野の研究開発とその環境整備の中核的な役割を担う資金配分機関（ファンディング・エージェンシー）として、2015年に設立されました。設立以降、一貫して、医療分野の研究開発関連予算を集約し、基礎から実用化まで切れ目のない研究開発支援を実施しています。

第3期中長期計画の下では、第2期中長期計画期間に確立したモダリティ（創薬手法や治療手段等）を軸とする仕組みをさらに発展させ、8つの統合プロジェクトにより推進します。また、疾患領域に関連した研究開発についても、引き続き、領域別に統合プロジェクトを横断する形で柔軟なマネジメントを行います。

医療研究開発を基礎から実用化まで一貫して推進し、絶え間なく創薬等シーズが創出されるよう、基礎研究を継続的・安定的に支援するとともに、出口志向を強化してリスクマネーの供給により成果の実用化を加速します。全ての統合プロジェクトに共通して、伴走支援の強化、医療DXやAI創薬の推進、国際展開に取り組みます。また、基礎研究・応用研究から臨床研究の各段階において、シーズを企業に導出することを含め、社会還元の視点をもって、各府省庁事業間をつなぐ支援の取組を整備し、体制強化にも取り組みます。研究への患者・市民参画など、医療研究開発における「社会共創」の取組も一層推進していきます。

感染症有事に備えた対応としては、統合プロジェクトに新たに感染症プロジェクトを立ち上げ、政府関係機関等との連携にも着手しています。2022年にAMED内に設置した先進的研究開発戦略センター（SCARDA）をはじめと

する「ワクチン開発・生産体制強化戦略」に基づく取組を含め、ワクチン、診断薬・治療薬の開発体制の整備に取り組めます。

モダリティの多様化が急速に進むなか、分野横断的なアプローチによる創薬力の強化や国際競争力のある新規モダリティ開発の加速が求められています。国内外の様々な機関との連携を深めるとともに、情報収集・発信にも一層注力し、国際共同研究や人事交流を活性化することで、グローバルな視点でAMED全体の事業推進と成果の最大化を図りたいと思います。

患者さんや医療現場、研究者、産業界等のニーズを十分踏まえながら、世界最高水準の技術を用いた医療の提供、ひいては、健康長寿社会の形成に一層貢献できるよう取り組んでまいります。

2025年吉日

国立研究開発法人
日本医療研究開発機構
理事長

中 釜 寿



概要

名称 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development (AMED)
※略称の「AMED」は「エーメド」と読みます。

目的 医療分野の研究開発における基礎から実用化までの一貫した研究開発の推進、成果の円滑な実用化及び医療分野の研究開発のための環境の整備を総合的かつ効果的に行うため、健康・医療戦略推進本部が作成する医療分野研究開発推進計画に基づき、医療分野の研究開発及びその環境の整備の実施、助成等の業務を行う。

設立日 2015年(平成27年)4月1日

主務大臣 内閣総理大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣

根拠法等 健康・医療戦略推進法、国立研究開発法人日本医療研究開発機構法

組織等 ①役員:4名
理事長 中釜 斉
理事 屋敷 次郎
監事 小宮山 榮 牧 兼充
②職員:742名(2025年<令和7年>1月1日現在)

予算 2025年度(令和7年度)
日本医療研究開発機構向け補助金等 1,163億円
運営費交付金 67億円
調整費 175億円*
★科学技術イノベーション創造推進費の一部を充当見込み
※上記の他、基金事業・政府出資金事業を実施

本部所在地 東京都千代田区大手町1-7-1 読売新聞ビル

沿革 2013年(平成25年)
6月 「日本再興戦略」閣議決定

2014年(平成26年)
5月 「健康・医療戦略推進法」
「独立行政法人日本医療研究開発機構法」成立

2015年(平成27年)
4月 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)設立、
「第1期中長期計画」開始

2020年(令和2年)
4月 「第2期中長期計画」開始

2022年(令和4年)
3月 先進的研究開発戦略センター(SCARDA)設置

2025年(令和7年)
4月 「第3期中長期計画」開始

AMEDのご案内

2025年(令和7年)～2026年(令和8年)

CONTENTS

組織の基本情報 ABOUT

- 02 理事長ご挨拶
- 03 概要
- 04 AMEDとは 設立の背景
- 05 AMEDの理念・運営方針、AMEDが果たすべき機能
- 06 AMEDが推進する研究開発、プロジェクトのマネジメント体制
- 07 組織図

事業・取組紹介 PROJECTS

8つの統合プロジェクト

- 08 1:医薬品プロジェクト
2:医療機器・ヘルスケアプロジェクト
- 09 3:再生・細胞医療・遺伝子治療プロジェクト
4:感染症プロジェクト
- 10 5:データ活用・ライフコースプロジェクト
6:シーズ開発・基礎研究プロジェクト
- 11 7:橋渡し・臨床加速化プロジェクト
8:イノベーション・エコシステムプロジェクト
- 12 先進的研究開発戦略センター(SCARDA)
- 13 実用化、知的財産に関する取組
- 14 研究公正に関する取組・社会共創に関する取組
- 15 国際連携の取組

AMED活用情報 INFORMATION

- 16 AMEDで働く人々
- 17 各種活用情報等のご案内
- 20 ひとめでわかる! AMED
- 22 利用者・目的別情報、窓口
- 23 情報発信

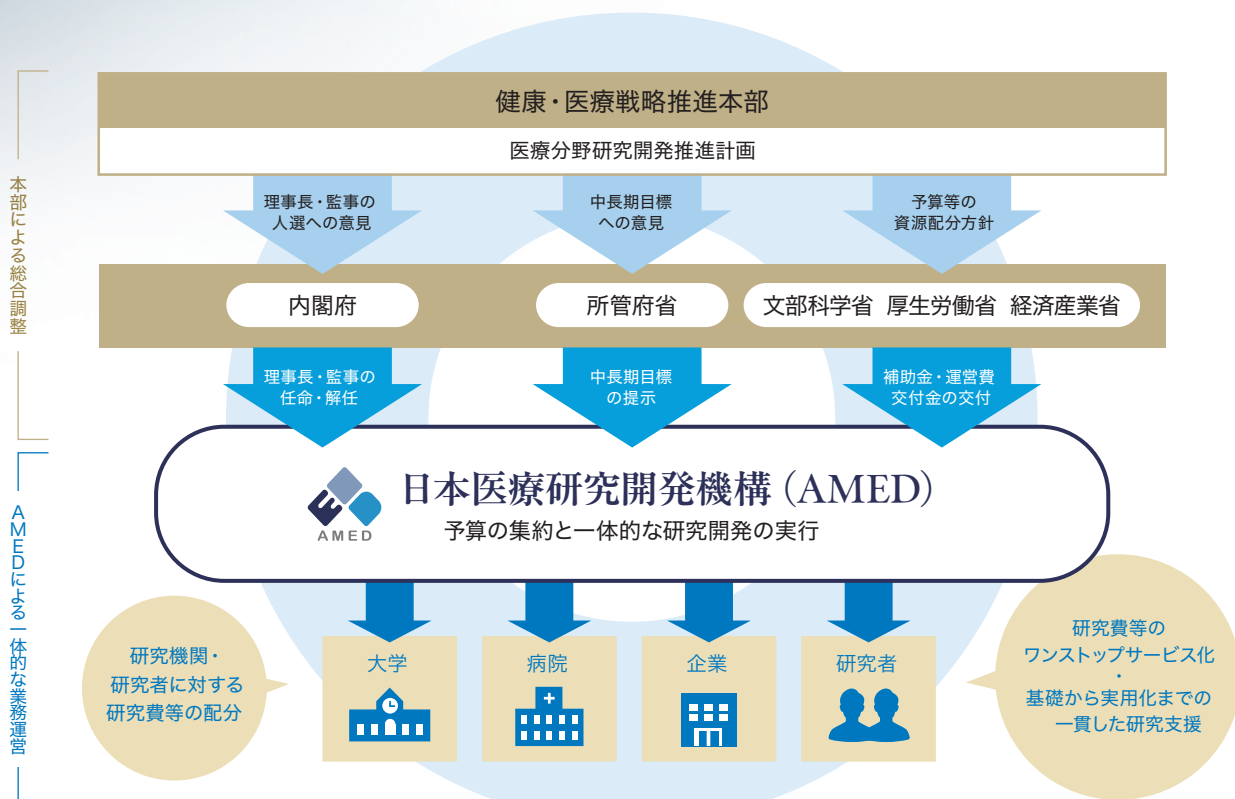
AMEDとは



AMED(エーメド)は、医療分野の研究開発及びその環境整備の中核的な役割を担う機関として、2015年(平成27年)4月に設立されました。

基礎から実用化までの一貫した医療研究開発の推進と、その成果の円滑な実用化を図るとともに、研究開発環境の整備を総合的かつ効果的に行うための様々な取組を行う国立研究開発法人です。

AMEDは、健康・医療戦略推進本部の「健康・医療戦略」「医療分野研究開発推進計画」等の施策を進めていくため、日本の医療分野の研究開発の司令塔機能を担っています。それまで文部科学省・厚生労働省・経済産業省が独自に実施していた医療分野の研究開発を一元的に実施することで、研究から臨床への迅速・円滑な橋渡し、国際水準の質の高い臨床研究・治験を確実に遂行できるシステムの構築等を行っています。



AMED 設立の背景

世界の中でも高いレベルを誇る日本の医療研究開発力ですが、文部科学省・厚生労働省・経済産業省が独自に研究開発を実施していたことで、基礎研究から応用研究、実用化に至るまで切れ目なく研究を支援する体制が十分ではありませんでした。また、臨床研究・治験の実施体制が不十分で、新しい医薬品や医療機器の創出に時間がかかることも課題とされてきました。

そこで、AMEDに3省の医療分野の研究開発の予算を集約し、医療に関する研究開発事業もそのほとんどがAMEDに移管されました。AMEDが支援している研究開発課題は年間2,700件以上あり、基礎から実用化まで、様々なフェーズに位置しています。

AMEDの 理念・運営方針

AMEDの運営は、独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）に基づき、中長期計画を策定し、その目標達成に向けて取り組んでいます。現在、第3期中長期計画期間（2025年〈令和7年〉4月1日から2030年〈令和12年〉3月31日までの5年間）であり、AMEDは産学官の中心となって、医療に関する研究開発のマネジメント、研究データマネジメント、実用化に向けた支援、国際戦略の推進、研究不正防止の取組の推進等の機能を果たし、成果の最大化に向け取り組んでいます。

理 念

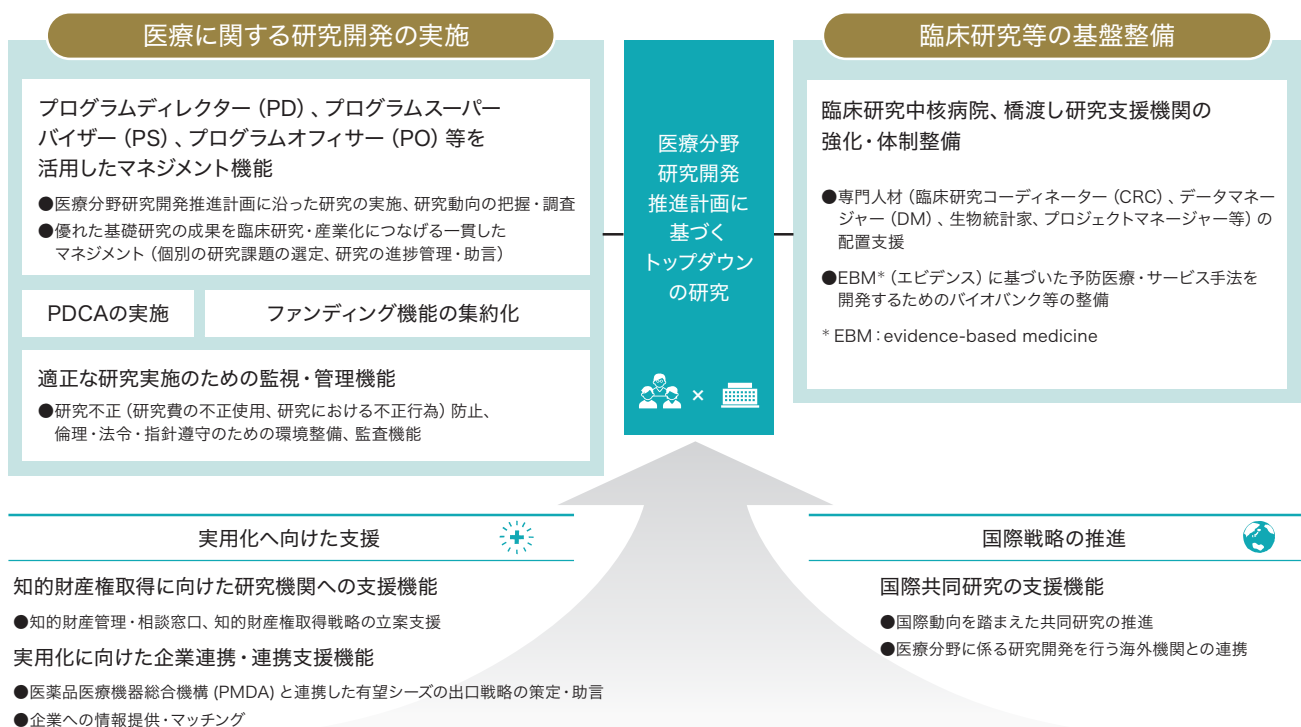
AMEDは、医療分野の研究開発及びその環境整備の中核的な役割を担い、「医療分野の研究成果を一刻も早く実用化し、患者さんやご家族の元にお届けすること」を目指します。

運営方針

- ・ 基礎から実用化までの一貫した医療研究開発を推進し、研究開発の成果の普及と円滑な実用化を図ります。
- ・ 研究開発を推進する触媒となり、医療イノベーション創出への道を拓きます。
- ・ 研究成果の実用化に向けて産学連携の支援を行います。
- ・ 海外機関と連携して国際動向を踏まえた共同研究を推進します。
- ・ 研究費の効果的な運用や業務の効率化について改善を続けます。
- ・ 適正な研究実施のための不正防止や法令遵守に取り組めます。

AMEDが 果たすべき機能

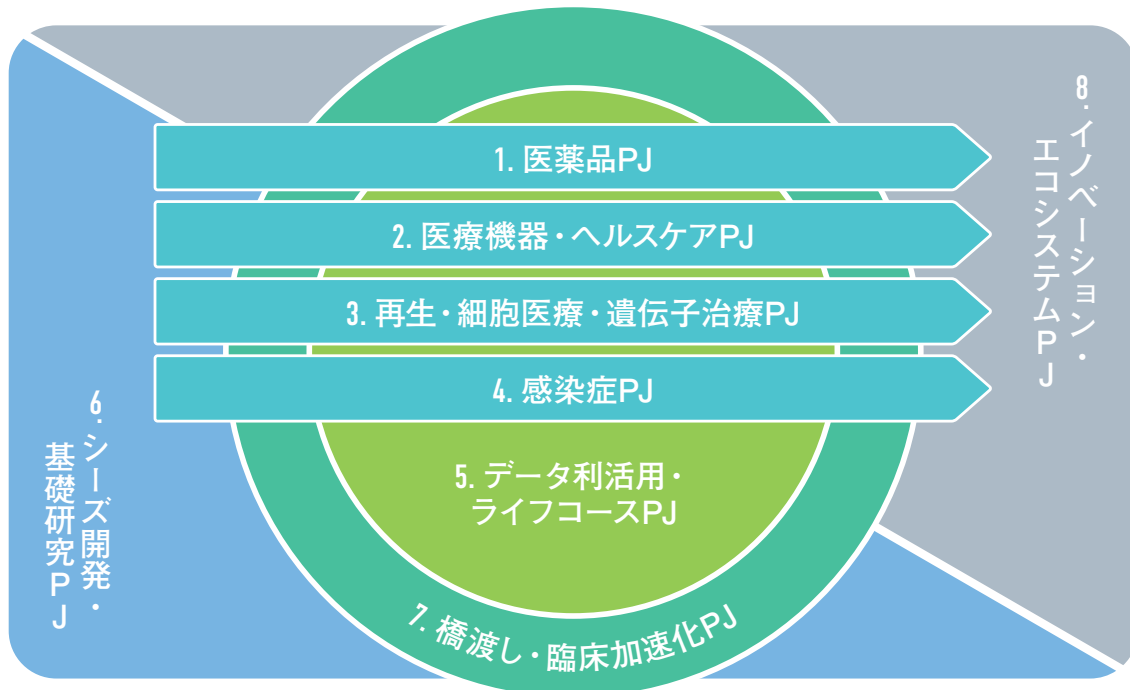
AMEDは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）のPDCAにより、一貫したマネジメント機能をもって医療分野研究開発推進計画に沿った研究課題の実施を推進します。そして、優れた基礎研究の成果を臨床研究や実用化につなげることで、医療の質を高め、世界最高水準の医療サービスの実現及び健康長寿社会の形成に努めます。



AMEDが 推進する研究開発

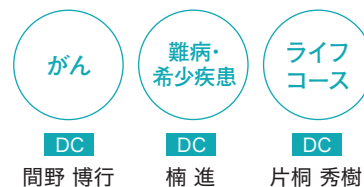
8つの統合プロジェクト p8へ

第3期推進計画に基づき、総合プロジェクト(PJ)により一元的な管理を行います。
第2期中長期目標期間中の編成をベースとしつつ、実用化志向性のさらなる促進、第2期中長期目標期間中に発生した感染症有事を踏まえた対応の必要性、第2期中長期目標の期間までに造成された基金で実施する事業の統合プロジェクトとの一体的推進等を勘案し、以下の枠組みで推進します。



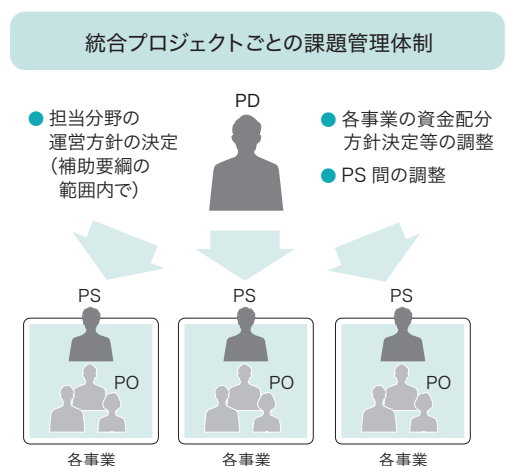
<疾患領域に関連した研究開発>

8つの統合プロジェクトを横断した領域を設定。
高度な専門的知見をもって疾患領域の推進に関する戦略立案等を行う疾患領域コーディネーター(DC)を設置。

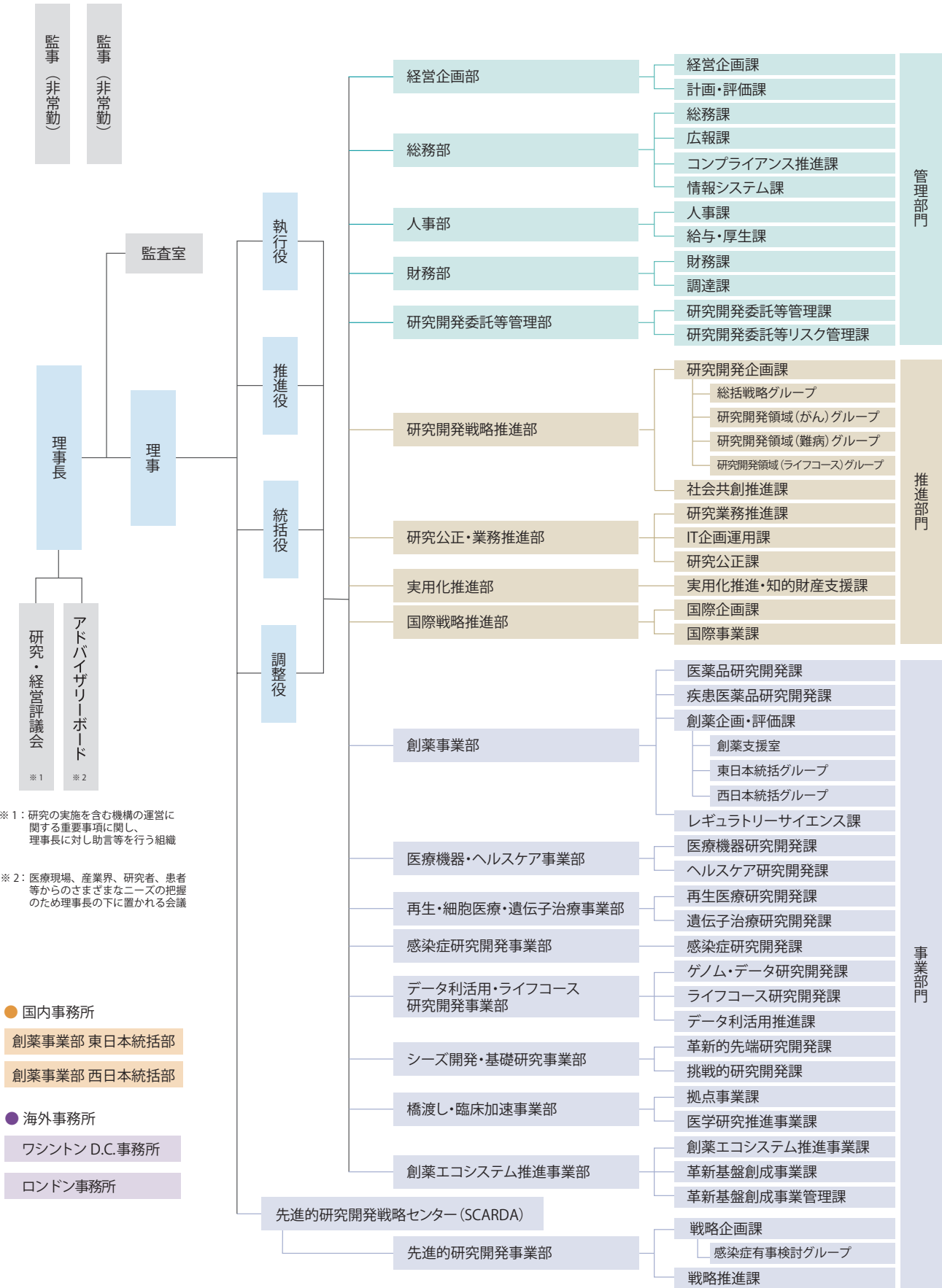


プロジェクトの マネジメント体制

事業の実施に当たっては、大学、研究機関、企業等の研究者、あるいは機関等から広く提案を募集し、適切に評価・選考を行い、実施者を決定します。また、研究開発課題の評価および運営は、その研究分野に関して高い見識を有する専門家を「プログラムディレクター(PD)」「プログラムスーパーバイザー(PS)」「プログラムオフィサー(PO)」として選任し、PD、PS、POは協力して重点分野全体の課題を把握し、担当する分野(事業)の運営や分野間の協力等の調整を行います。AMEDはこうした体制の下、一貫したマネジメントで研究開発を推進しています。



組織図



※ 1: 研究の実施を含む機構の運営に関する重要事項に関し、理事長に対し助言等を行う組織

※ 2: 医療現場、産業界、研究者、患者等からのさまざまなニーズの把握のため理事長の下に置かれる会議

- 国内事務所
 - 創業事業部 東日本統括部
 - 創業事業部 西日本統括部
- 海外事務所
 - ワシントン D.C.事務所
 - ロンドン事務所

8つの統合プロジェクト

基礎研究から実用化まで一貫して推進。
産学官の中心となり成果を社会へ

医薬品 プロジェクト

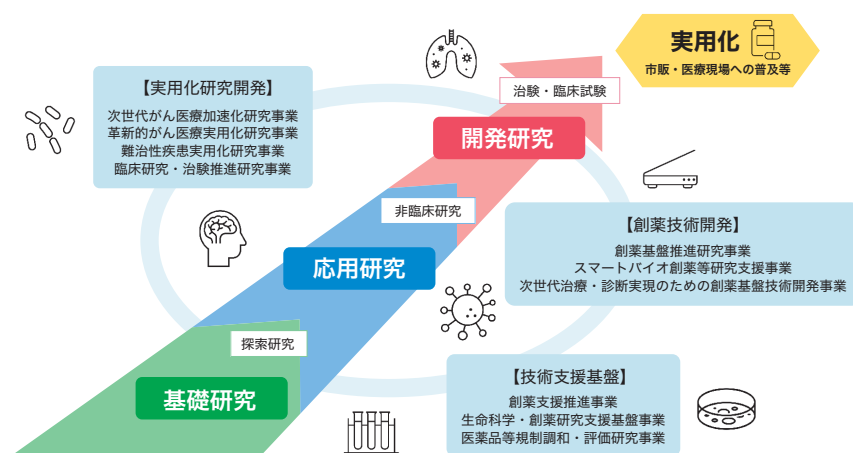
PD 近藤 裕郷

医薬品研究の幅広い支援、
研究開発力の向上に
向けた環境整備で、
持続可能な創薬力の強化へ



<https://www.amed.go.jp/program/list/index01.html>

医薬品の研究開発における基礎から臨床試験までを幅広く支援するとともに、多様なステークホルダーとの連携を強化することで、アカデミア発シーズの実用化を推進しています。また、がんや希少・難治性疾患といった医療ニーズの高い領域における革新的な治療法の開発のほか、新規モダリティの創出等を見据えて、レギュラトリーサイエンス研究の推進やアカデミアシーズの開発を推進する伴走支援、創薬デザイン技術や化合物ライブラリー・解析機器の共用など創薬研究に必要な支援基盤の整備、個別化医療の推進に向けた先進的な創薬・製造技術の開発などに取り組んでいます。さらに、創薬研究の効率化を図るため、産学連携による大規模な創薬データの活用を通じて、疾患に有効な標的分子の特定や、それらに作用する物質構造の最適化を可能にする、統合創薬AIプラットフォームの構築を支援しています。



医療機器・ ヘルスケア プロジェクト

PD 佐久間 一郎

最先端のテクノロジーを
活用して医療機器・
ヘルスケア分野の
イノベーションを加速させ、
研究開発の成果をいち早く
社会へ還元することを推進

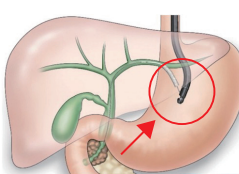


<https://www.amed.go.jp/program/list/index02.html>

AI・IoT、計測、ロボティクス等における最先端のテクノロジーを融合的に活用し、革新的な医療機器・医療機器プログラム (SaMD) やヘルスケア機器・サービスの研究開発を推進します。医療機器分野では、臨床的なアウトカムの最大化や予後改善につながる診断・治療の高度化、医療従事者の業務効率化の実現に重点を置き、臨床ニーズが高く医療の質の向上につながる研究開発や臨床現場を理解した開発人材の育成などの環境整備を行います。ヘルスケア分野では、科学的エビデンスに基づくヘルスケアサービスの開発に重点を置き、予防・生活の質 (QOL) 向上につながる指針の策定、健康管理アプリやウェアラブルデバイス、高齢者のQOL向上につながる介護テクノロジーの創出と実用化を行います。研究開発の成果をいち早く社会に還元するため、国内はもちろん海外市場への展開も視野に入れた医療機器・ヘルスケア分野の研究開発を積極的に進めます。

超音波内視鏡下経胃的胆管 ドレナージ術専用デバイス

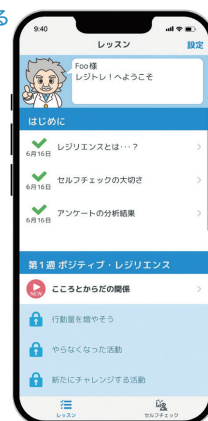
研究開発代表者：北野
雅之 (和歌山県立医科
大学) 2024年9月に
クラスⅢ医療機器と
して薬事承認され保
険適用となった。



認知行動スキルを学べる スマートフォンアプリ

研究開発代表者：古川 壽亮
(京都大学) 5つの認知行動
スキル (行動活性化、認知再
構成、問題解決、アサーショ
ン、睡眠行動療法) を学べる
スマートフォンアプリに
よる介入の効果を大規模な
無作為割り付け比較試験に
より検証した。

(2025年4月23日に国際学術
誌「Nature Medicine」にオン
ライン掲載)



再生・細胞医療・遺伝子治療プロジェクト

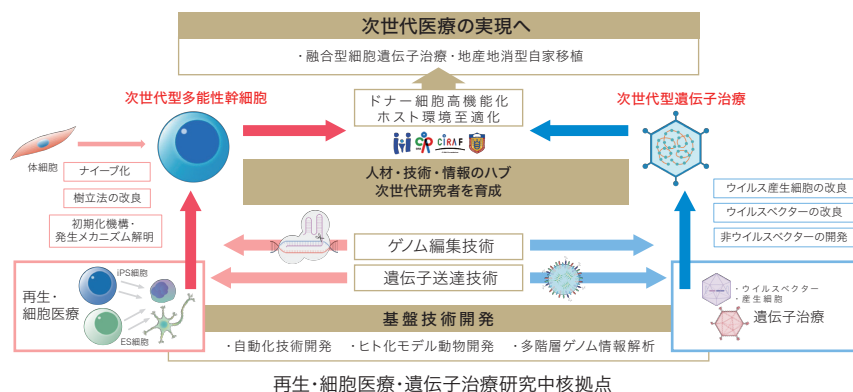
PD 五十嵐 隆

新たなモダリティとして
期待されている
再生・細胞医療・
遺伝子治療の
研究開発を推進



<https://www.amed.go.jp/program/list/index03.html>

再生・細胞医療の実用化に向けて、革新的な基礎・応用研究、非臨床・臨床研究や製造基盤技術の開発、疾患特異的iPS細胞等を活用した難病等の病態解明・創薬研究及び必要な基盤構築を進めています。また、遺伝子治療について、遺伝子導入技術や遺伝子編集技術に関する研究開発を行っています。これらの分野融合的な研究開発、伴走支援等を取り入れながら推進しています。

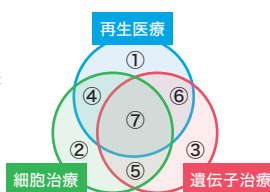


本プロジェクトの支援対象：

薬機法で定義される再生医療等製品
安確法で定義される特定細胞加工物
※なお、基礎研究では周辺技術を含めて広く支援

「再生医療」「細胞治療」の法令上の
定義はないが、以下を想定。

- 再生医療：失われた組織・臓器を修復・再建し、機能を回復させる治療
- 細胞治療：細胞を投与することによる治療



例	該当
① スキャフォールド治療*	×
② GVHDに対する間葉系幹細胞（デムセル）	○
③ SMAに対するSMN1遺伝子（ノルゲンスマ）	○
④ 重症熱傷に対する表皮細胞シート（ジェイス）	○
⑤ CAR-T（キムリア）、造血幹細胞遺伝子治療	○
⑥ HGF遺伝子治療による血管再生（リファジン）	○
⑦ ユニバーサルドナーセルを用いた組織再生	○

*足場となる基材を損傷部位に留置し組織修復を促す治療。細胞を含まない。

感染症プロジェクト

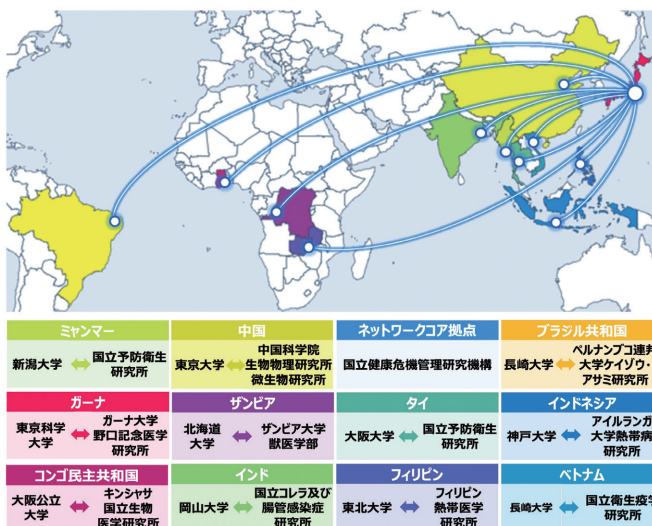
PD 小柳 義夫

パンデミックに備えた
研究開発基盤の強化、
平時における感染症の
科学的な基礎知見の創出から
医薬品等の開発、
その実用化につなげる



https://www.amed.go.jp/program/list/index_03_04.html

新型インフルエンザなどの新興感染症や、デング熱や結核などの再興感染症など、幅広い感染症の予防法・診断法・治療法などの研究開発を基礎から実用化まで一体的に推進しています。今後のパンデミックに備え、国立健康危機管理研究機構（JIHS）や国内外の関連機関と連携し、研究開発基盤の強化を進めるとともに、感染症の医薬品等の研究開発に幅広く取り組んでいます。また、エイズや肝炎に関する感染のメカニズムや免疫等の仕組みを解明し、これらの予防・診断・治療に必要な医薬品・医療機器の開発につながる基礎・臨床研究等を推進しています。先進的研究開発戦略センター（SCARDA）では、パンデミックを見据えた戦略的なワクチン開発を推進しています。SCARDAの取組は、12ページをご覧ください。



データ 利活用・ ライフコース プロジェクト

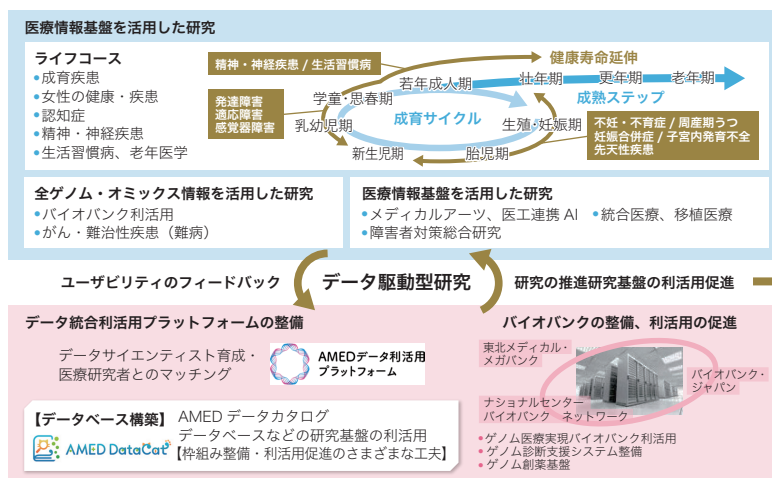
PD 武田 伸一

医療および
医学研究データ基盤の
整備・利活用を促進し、
ライフコースを俯瞰した
疾患の発症・重症化予防、
診断、治療等の実現へ



<https://www.amed.go.jp/program/list/index04.html>

がん、難病、認知症等の疾患レジストリ、ゲノム・コホート研究で得られた成果や生体試料に関する情報をデジタル化した加工データ基盤の整備・利活用を促進し、ライフコースを俯瞰した疾患の発症・重症化予防、病態解明、診断、治療等に資する研究開発を推進することで、ゲノム医療、個別化医療の実現を目指します。また、医療分野の研究開発等におけるデータ利活用を加速するようデータ基盤整備に取り組みます。特に、AMEDが支援した研究開発で得られたデータを共有する仕組みを整備し、運用しています。また、医療及び医学研究データ基盤を整備・活用し、がん・難病等のゲノム解析、ライフコースを俯瞰した多様なコホートによる病態把握を行い、生活習慣病の予防のエビデンス創出やAI技術による早期診断に役立てています。



他統合プロジェクトの研究へ展開・連携

シーズ開発・ 基礎研究 プロジェクト

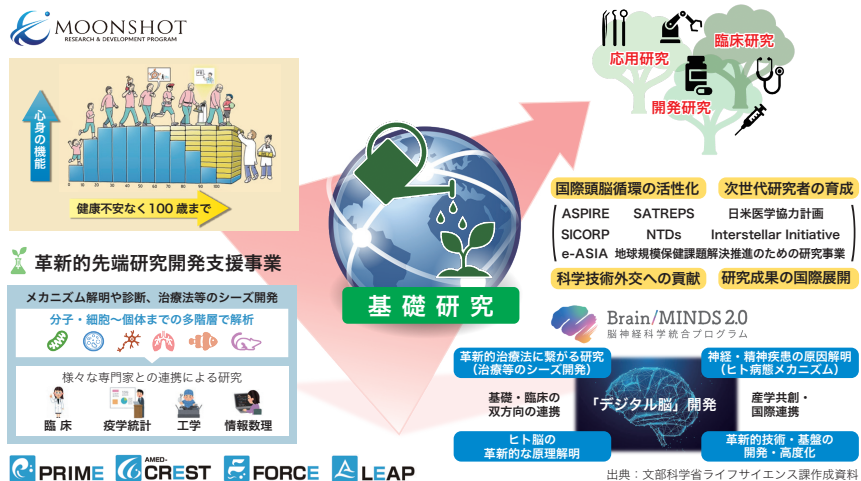
PD 影山 龍一郎

新規モダリティの創出に向けた
画期的なシーズの創出・育成等
の基礎的研究を行うとともに、
国際共同研究を強化し、
診断・治療・創薬等につながる
シーズ開発を行う。



<https://www.amed.go.jp/program/list/index06.html>

アカデミアの組織・分野の枠を超えた研究体制を構築し、新規モダリティの創出に向けた画期的なシーズの創出・育成等の基礎的研究を推進するとともに、国際的に優れた研究成果創出に向けて先進国や政策上重要な国々等との国際共同研究を強化し、国際脳循環の活性化及び次世代の優秀な若手研究者の育成に貢献します。また、基礎と臨床、アカデミアと産業界の連携を強化して、神経疾患・精神疾患の画期的な診断・治療・創薬等シーズ開発に向けた基礎研究を推進します。その上で、異分野融合、他事業連携を促進し、他の統合プロジェクトに将来的につながり得るような、モダリティの多様化に対応する革新的シーズを創出・育成します。さらに、ムーンショット型研究開発制度の下で、従来技術の延長にない、より大胆な発想に基づく挑戦的な研究開発（ムーンショット）を所管府省と連携して推進します。



橋渡し・臨床加速化プロジェクト

PD 金田 安史



「革新的医療技術創出拠点」の一貫した橋渡し研究・臨床研究支援によるシーズの実用化加速と医学系研究力強化を目指す



https://www.amed.go.jp/program/list/index_03_07.html

橋渡し研究支援機関の機能を活用してアカデミアシーズの研究開発を推進し、基礎研究の成果を臨床研究・実用化へ効率的に橋渡しする支援を行い、革新的な医薬品・医療機器等の創出を目指します。臨床研究中核病院においては、国際共同治験の能力を強化するよう国際水準の臨床試験実施体制の整備を進めるとともに、臨床研究中核病院の特色化と高度化を図ります。

また、革新性が高く実用化までのリスクが高いシーズのスタートアップを介した研究開発を推進するため、医療系スタートアップ支援拠点や橋渡し研究支援機関を活用し、大学発医療系スタートアップの起業に係る専門的見地からの伴走支援体制の整備や非臨床研究等に必要の費用の支援、医療ニーズを捉えて起業を目指す若手人材の発掘・育成を実施します。さらに、医学系研究力の強化を図るため、研究者の研究活動と、機関としての研究環境改善に係る取組を一体的に支援します。

革新的医療技術創出拠点



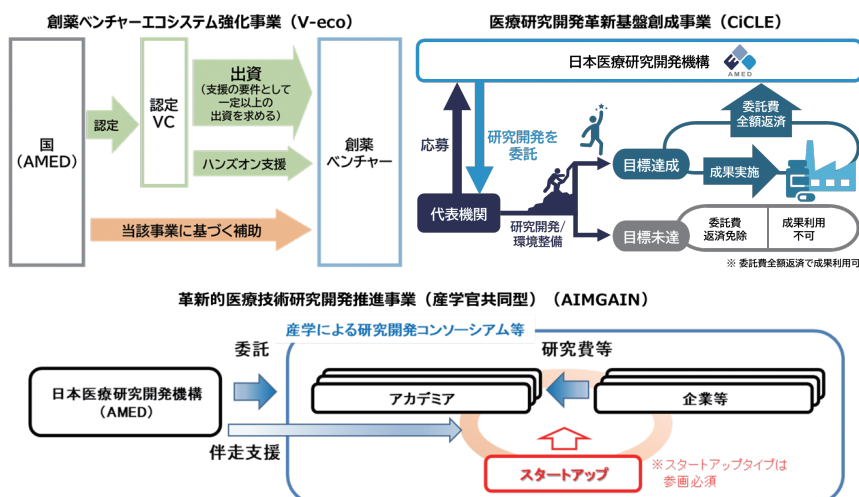
イノベーション・エコシステムプロジェクト

PD 稲垣 治



創業ベンチャーや産学官連携による研究開発を推進し、革新的な医薬品・医療機器等創出のためのイノベーション・エコシステムを構築

創業ベンチャーに対する非臨床試験段階から臨床試験段階までの研究開発及びベンチャーキャピタルによるハンズオン支援を強化するとともに、革新的な医薬品・医療機器等の創出に向けて、産学官が連携して取り組む研究開発及びその環境として我が国の創業エコシステム整備を促進します。また、基金と企業原資の研究費を組み合わせ、医療上の必要性が高く特に緊要となった医薬品・医療機器等の研究開発を産学官共同により推進します。また、創業ベンチャーエコシステム強化事業を推進し、認定VCの目利き力を活かして、ワクチン戦略を踏まえた感染症ワクチン・治療薬開発及び感染症以外の疾患に対する医薬品等の開発に資する革新的なモダリティの実用化開発を行う創業ベンチャーに対して支援を行います。



https://www.amed.go.jp/program/list/index_03_08.html



先進的研究開発戦略センター SCARDA



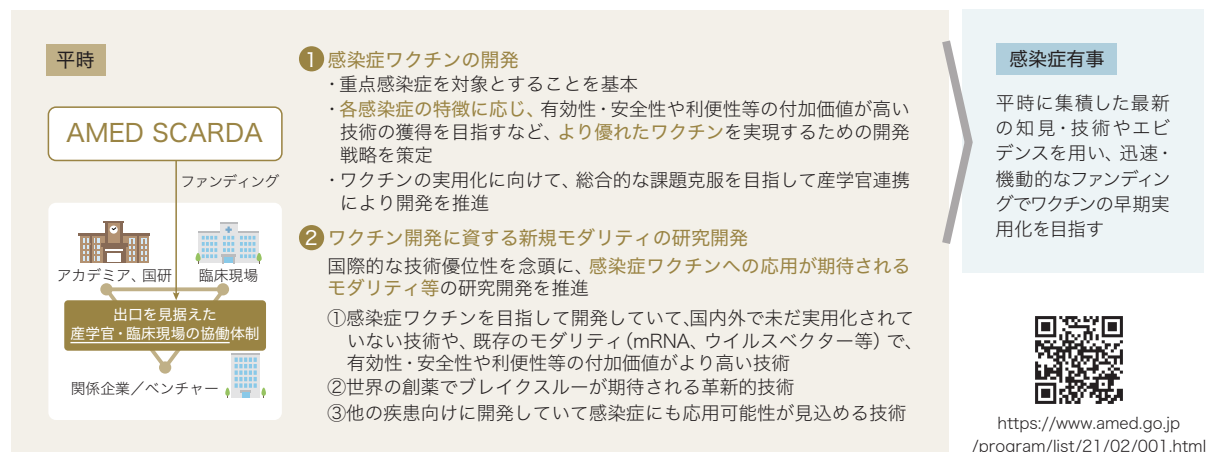
次の「いざ」に備え、産学官の英知を結集し、世界に誇るワクチン研究基盤を強化
安全で効果的な日本発のワクチン創出に貢献

先進的研究開発戦略センター（SCARDA）では、
ワクチン開発に関する広範な情報収集・分析を行うとともに、以下の2つの事業を推進しています。

さらに、感染症有事にいち早く研究開発等に着手できるよう、
平時から国内外の関係機関と連携し、有事に備えたシミュレーション等を行っています。

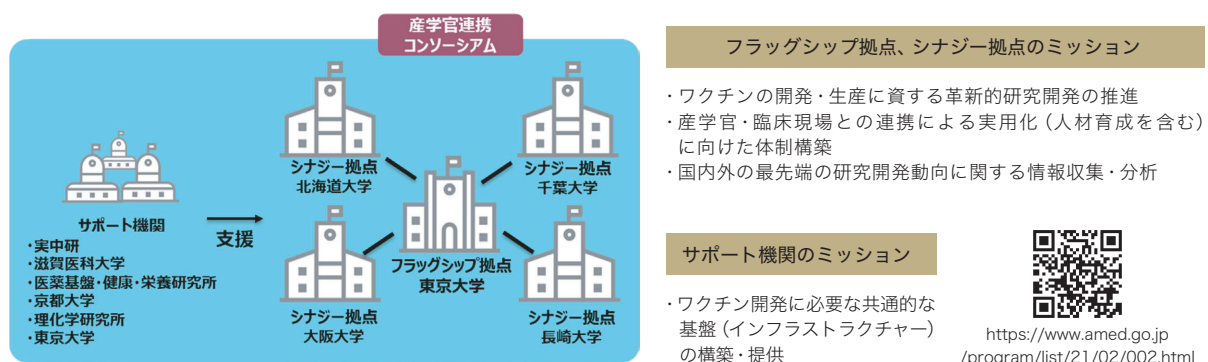
ワクチン・新規モダリティ研究開発事業

今後のパンデミックの脅威に備え、重点感染症に対して、感染症有事にいち早く、安全で有効な、国際的に貢献できるワクチンを国内外に届けるため、平時より長期的・安定的かつ戦略的に、①感染症ワクチンの開発、②ワクチン開発に資する新規モダリティの研究開発を支援しています。



ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業

国産ワクチン等の実現に向け、世界トップレベル研究開発拠点（フラッグシップ拠点、シナジー拠点、サポート機関）の整備等を行うとともに、平時から同研究拠点を中心として、出口を見据えた関連研究を強化・推進します。



医療研究推進のための横断的取組

AMEDは、医療研究の推進に向け、社会共創の促進、研究成果の実用化支援、知的財産の戦略的活用、国際連携の強化など、組織横断的に取組を行っています。

実用化、知的財産に関する取組

<https://www.amed.go.jp/chitekizaisan/index.html>

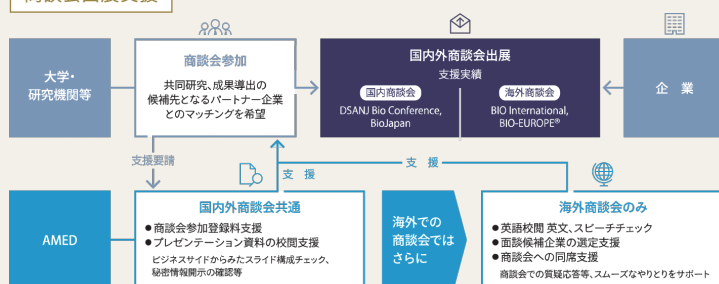


■ 実用化に関する取組

研究成果の実用化に向けて、TPP策定支援や商談会への出展支援等により、企業への導出を支援します

研究成果を早期に実用化するための事業戦略・知財戦略・導出戦略について、AMEDのコンサルタントがコンサルテーションを実施し、調査支援やパートナーリング支援などをご提案します。また、AMEDでは、国内外の商談会参加への支援等のパートナーリング支援を行っています。*

商談会出展支援



知財・実用化支援



*：商談会出展支援及びTPP策定支援は、現在または過去にAMEDに採択された課題が対象です。

■ 知的財産に関する取組

実用化に必要な特許の取得や知財戦略策定を支援するため、コンサルテーションや先行技術等調査を実施しています

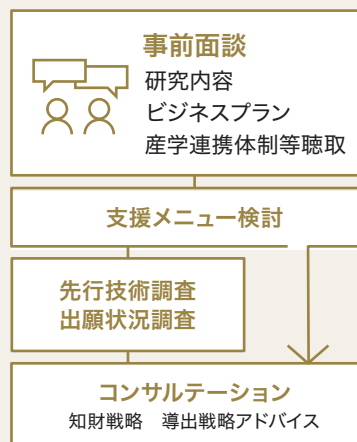
AMED 研究成果の実用化に向けて、知的財産コンサルタント等によるコンサルテーションを実施しています。このコンサルテーションの一環として、先行技術調査、出願状況調査を無料で行っています。*また、知財教材の提供やセミナーの開催も行っています。

医療分野の知財相談窓口

相談はMedical IP Desk(医療分野の知財相談窓口)を通じて受け付けています。まずはメールでご連絡ください。
medicalip@amed.go.jp

詳細は
P.22へ

知財コンサルテーション



*：先行技術調査及び出願状況調査は、現在または過去にAMEDに採択された課題が対象です。

研究公正に関する取組

https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/index.html



研究活動における不正を防止し、 公正かつ責任ある研究活動を推進しています

AMED事業に参画する研究者には研究倫理教育の受講を、研究機関には研究者の研究倫理教育の受講状況や利益相反の管理をお願いしています。研究不正事例や不正には至らなかったヒヤリ・ハット事例から学ぶための教材開発、講習会の開催、RIOネットワークを通じた情報発信や情報交換等を通じて、研究活動における不正防止と公正かつ責任ある研究の推進を図っています。

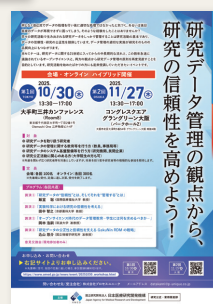
取組例 >>

- ・研究倫理教育教材の開発※
- ・研究公正に関するワークショップの開催
- ・RIOネットワークによる情報発信や情報交換、講習会等の開催等

※詳細は

P.19へ

研究公正に関するお問い合わせは、(kenkyuukousei@amed.go.jp)にお送りください。



社会共創に関する取組

<https://www.amed.go.jp/socialcocreation/index.html>



社会の真のニーズを満たす成果を 一刻も早く患者・家族にお届けするため、 社会との対話や協働を促進しています

基礎から実用化まで、あらゆるフェーズにある健康・医療分野の研究開発が社会の理解や信頼を得つつ進められるよう、責任ある研究・イノベーション(RRI: Responsible Research and Innovation)の考え方に基づき研究開発の推進・展開が目指されています。そのためAMEDでは、倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)への対応、ダイバーシティ推進、研究への患者・市民参画(PPI: Patient and Public Involvement)等、医療研究開発を社会と共に創り、次の社会を共に創るための「社会共創」の取組を充実・普及させています。

トピックス

2024年度「AMED社会共創EXPO in 千船病院福ハッピーフェスタ」開催

健康・医療分野の研究開発について患者・市民の方に関心を持ってもらうため、2024年12月8日に社会福祉法人愛仁会千船病院(大阪市西淀川区)協力のもと、千船病院福ハッピーフェスタにAMED社会共創EXPOとして「AMED未来の医療が見える展」を出展しました。当日は子どもから大人まで、多くの患者・市民の方々に、AMED事業に開発された医療機器等を実際に体験いただくとともに、「未来の医療」について数々の対話を楽しみました。

AMED未来の医療が見える展の様子

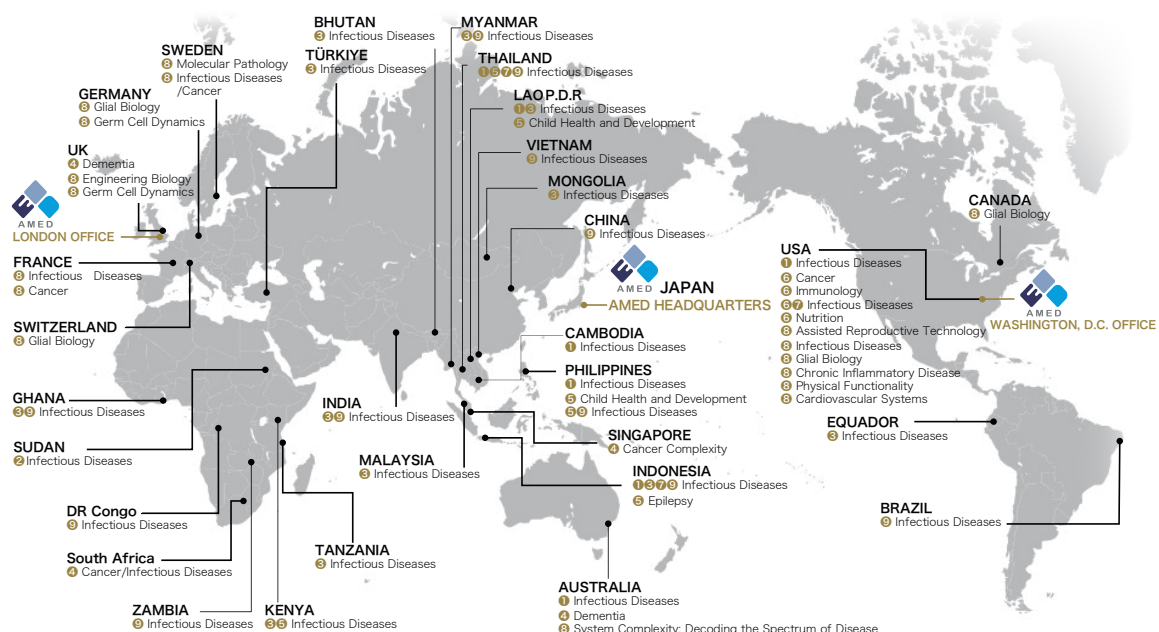


<https://www.amed.go.jp/socialcocreation/amedactivities.html>



国際連携の取組

超高齢社会の疾患構造の変化やパンデミック等の緊急事態等も踏まえて、AMED では日本の医療研究開発力の強化やグローバルな共通課題に協力して取り組むために、国際連携を推進するとともに、発展途上国における医療研究成果の実装化を念頭に置いた研究開発を通じた国際貢献を目指しています。



- ① e-ASIA 共同研究プログラム
- ② アフリカにおける顧みられない熱帯病 (NTDs) 対策のための国際共同研究プログラム
- ③ 地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム SATREPS
- ④ 戦略的国際共同研究プログラム SICORP
- ⑤ 地球規模保健課題解決推進のための研究事業
- ⑥ 日米医学協力計画 (USJCMSP)
- ⑦ 日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募
- ⑧ 先端国際共同研究推進プログラム ASPIRE
- ⑨ 新興・再興感染症研究基盤創生事業

連携活動の推進

国際ネットワークを活用して情報共有や海外機関との連携を拡大し、国内研究開発事業の強化や国際共同研究を推進するとともに、それを支える国際研究人材の輩出や活用促進のための環境整備等に取り組んでいます。

二国間・多国間連携

医療分野での研究協力を進めるため、諸外国の資金配分機関等との研究協力覚書 (MOC) に署名し、各国の強みを活かした二国間の国際共同研究を推進しています。

国際的な枠組み

国際的なアライアンスやコンソーシアム等の多国間連携の枠組みを通じて、グローバルなデータシェアリングや、感染症、ゲノム、がん、認知症等の重要な研究分野における国際活動や共同研究を推進しています。

AMEDで働く人々 — 医療研究の実用化を支える、越境するキャリアと挑戦 —

「医療分野の研究成果を一刻も早く実用化し、患者さんやご家族の元にお届けすること」—それがAMEDの理念です。この理念に共感し、産学官の垣根を越えてきた人、専門分野や職種の壁を乗り越えてきた人など、多様なキャリアを歩んできた職員がAMEDには集まっています。彼らは、研究開発の現場を支えながら、「AMED内には事業間の“壁”がある」とも言われる状況に果敢に挑み、分野や省庁、さらには国際的な枠組みを越えた連携の実現に取り組んでいます。このコーナーでは、そんな職員たちの「挑戦」と「志」、そしてその素顔の一端をご紹介します。



創薬力の向上に向けて

推進役 浅野 武夫

企業から大学教員・官僚を経て機構職員という、産学官を渡り歩いて今に至ります。また工学系出身ですが学位は医学で取得したという変わり種です。AMEDに来る前は、AMED創

成を検討している内閣官房・健康医療戦略室に籍をおいており、そこでの成果がどのような形になるのかを知りたくてAMEDに就職しました。現在は、「AMEDには各省庁に紐づく施策・事業間に壁が存在する」と評価された問題を解決するための、事業間連携の牽引を所管する「調整人」という立場です。AMEDは今、日本の創薬力の低下という課題への解決の先鋒に立たされており、日々その手腕が問われています。多くのステークホルダーを巻き込み、果敢に課題解決を進めていきたいと思っています。



研究開発に携わる一人の「触媒」として

医療機器・ヘルスケア事業部
医療機器研究開発課 課長 岩田 倫明

医療機器の開発支援と医療情報学の研究職としての「二足のわらじ」で仕事をしていたところ、AMED設立時に出向者としてFA（ファンディング・エージェンシー）の仕事に携わる

ことになりました。不思議とその仕事が水に合ったようで、今となってはAMEDの職員として仕事に取り組んでいます。現在は自分の専門に近いところである、医療機器の研究開発支援を担う部署に所属していますが、以前は人事の仕事にも携わり、組織人としての視野をかなり広げることができたと考えています。様々な経験と最先端の知見を積みながら、研究開発に関わる人々の「触媒」として成果を実用へ導き、一分一秒でも早く患者さんに届けることを目標として職務に取り組んでいます。



医療研究の最前線 すべては患者さんの為に

経営企画部 計画・評価課
課長代理 永田 梢

国の機関や、医療に関係する仕事への憧れから、AMEDを希望しました。がん研究やムーンショット事業を支援する事業畑で育ち、現在は経営企画部で、AMED全体の経営面での

より良くなる仕組みを提案しながら管理部門で奮闘しています。モチベは、すべての業務が患者さんにつながっていると思えること。とはいえ最初は、文系＆民間企業出身の私には、見るもの聞くものすべてが新しく、戸惑いと勉強の日々でした。そんな中、困ったら助けてくれる人が周りに大勢いたのも、ここで楽しくがんばれている理由のひとつです。昨年度EU研修の機会をもらい国際の眼が開いたので、今後は、「世界のAMED」をアピールできるような国際展開に携わる仕事がしたいです。



“伝える力”で 研究の未来を支える

総務部 広報課
係長 齋藤 有加

前職では研究機関で研究職の採用に携わっていましたが、もっと研究支援に携わりたいと思い、AMEDを志望しました。機械や電子といった分野に携わっていたので、最初は戸

惑いもありましたが、最新の再生医療等の研究に触れられることに日々刺激を受けています。現在は広報課で、研究成果の広報やイベント出展を担当しています。AMEDが支援した研究が新聞などで大きく取り上げられる度に、その成果を世の中に伝える一助になれているのだと思い、やりがいを感じます。将来的には、広報で培った経験を活かしつつ、事業部門など、より研究現場に近いところで、先生方の挑戦を支える業務に携わりたいと思っています。

各種活用情報等のご案内

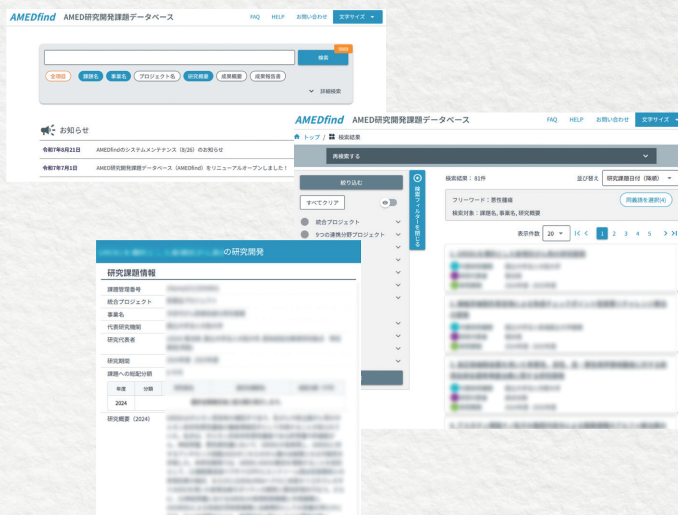
研究開発課題情報検索システム

AMED研究開発課題データベース (AMEDfind)

AMEDfindは、AMEDが支援する研究開発課題及び成果に関する情報を網羅的に検索・閲覧できるデータベースです。本データベースでは課題名、研究者、研究機関や成果報告等の多様な条件での検索が可能で、2025年7月には検索機能や閲覧性を大幅に改善した新システムとしてリニューアルしました。AMED設立以降、AMEDが支援した約1万件の研究開発課題の情報が掲載されています。(2025年8月末現在) また、AMEDデータカタログデータベース (AMEDDataCat) とも相互に連携しており、多様な側面から分析することが可能です。



<https://amedfind.amed.go.jp/>

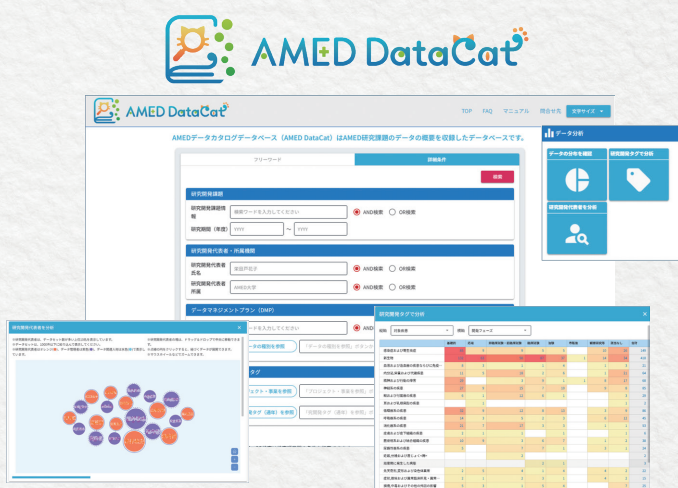


AMEDデータカタログデータベース (AMED DataCat)

AMEDが支援した研究開発課題でどのようなデータが生み出され、どこに保管され、どのようなシェアリングが可能か、検索することができます。また、対象疾患や開発フェーズなどの二軸分析、研究開発代表者と関連するデータ管理者やデータ関連人材のネットワーク図の表示が可能です。AMEDfindやresearchmapとも連携しています。利用登録不要、WEBブラウザで利用できますので、ぜひご利用ください！



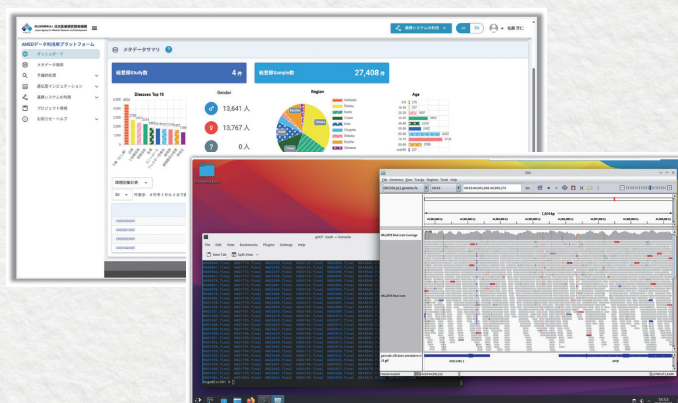
<https://www.datacatalog.amed.go.jp/amed/>



CANNDs (AMEDデータ利活用プラットフォーム)

AMEDの支援で収集されたデータを幅広く二次利用するためのプラットフォームです。2025年7月現在、全ゲノム解析データ約2万件を収載し、メタデータによるプレリサーチ (プレ分析) からリモートデスクトップによる実データの解析まで、ワンストップで実行可能なサービスを提供中。ゲノムデータ解析に興味を抱き始めた若手から、実際に活用構想を抱くベテラン研究者まで、ぜひ幅広くご利用下さい (利用料不要です) ！

AMEDデータ利活用プラットフォーム



<https://www.amed.go.jp/program/list/14/04/cannds-home.html>

AMEDぶらっと®

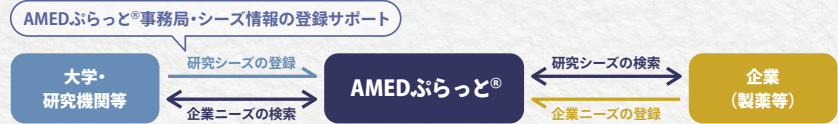
医薬品の研究シーズをお持ちのアカデミアと、ニーズをお持ちの企業との早期パートナーリングツールである「AMEDぶらっと®」を提供しています。

アカデミアの研究シーズ情報と企業ニーズ情報をそれぞれ登録することができ、アカデミア・企業間のコミュニケーションを促進することで、医療分野における研究開発成果の早期実用化を目指します。

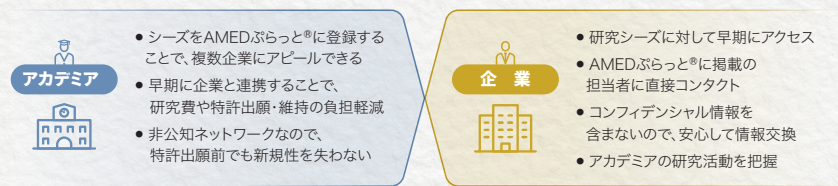


https://www.amed.go.jp/chitekizaisan/amed_plat.html

AMEDぶらっと®システムイメージ



AMEDぶらっと®のメリット

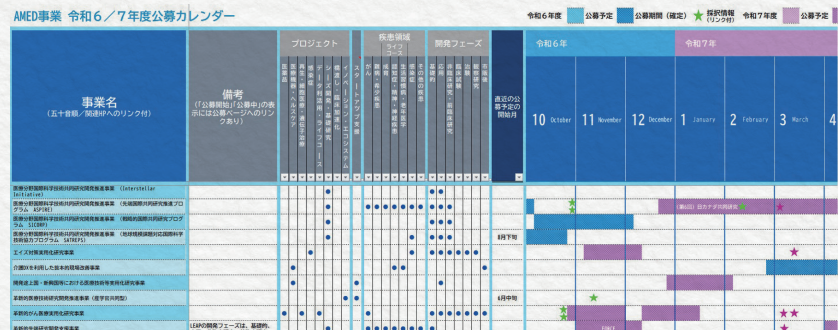


AMED事業 公募カレンダー

申請者の応募に向けた準備期間を確保いただくことなどを目的に、AMED事業の公募予定や目途などをわかりやすくまとめた「公募カレンダー」を公募情報ページに掲載、定期的に更新しています。ぜひ、ご活用ください！



<https://www.amed.go.jp/content/000117274.xlsx>



パンフレット・資料

AMED成果集

AMEDが推進する医療研究開発の成果や、よりよい研究開発を推進していくためにAMEDが行っている取組などを、年度ごとにまとめてご紹介しています。



<https://www.amed.go.jp/pr/kenkyujigyoseika.html>



AMEDデータブック

AMEDが実施する事業の公募・採択等、研究開発課題について、年度ごとにデータを集計・分析して掲載しています。



https://www.amed.go.jp/i-analysis/koubo.saitaku_deta.html



各事業紹介パンフレット

AMEDが推進する様々な医療研究開発事業や支援制度などを紹介するパンフレットを、まとめて掲載しています。



<https://www.amed.go.jp/pr/pamphlet.html>



教材等

知的財産教材

動画で医療分野特有の知財戦略が理解できる「医療研究者向け知的財産教材」と、授業や組織内研修の教材として利用可能な「医療系学生向け知的財産教材」を提供しています。



https://www.amed.go.jp/chitekizaisan/chizai_kyouzai.html

研究倫理教育教材

医療研究における不正行為を予防し、公正な研究活動を推進するための取組の一環として、研究倫理教育教材を作成しています。PDF版を公開していますので、研究機関での研究倫理教育にお役立てください。自習用としてもお使いいただけます。

教材のPDF版はAMEDウェブサイトでご覧できます。冊子版の配布も行っています。

研究倫理教材に関するお問い合わせは、(rionetwork@amed.go.jp)にお送りください。



https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/kyouiku_kenshu_kyouzai.html

概論 3. 研究開発プロセスと知的財産 【教材より抜粋】

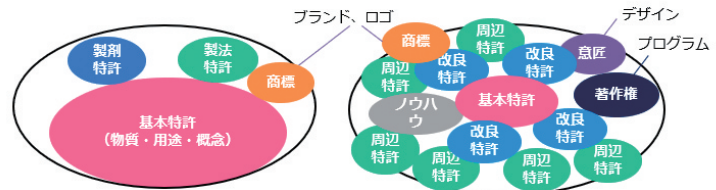
医薬品や医療機器を保護する知的財産権

医薬品

- 一製品に一基本特許が基本
- 一つの特許権の重要性は大きい

医療機器

- 一製品に多数の知的財産権が関与
- 特許を回避する技術開発は可能
- 技術改良で、製品サイクルが早い



※バイオ医薬品等の場合は培養法・保存法など様々な特許の位置づけがむしろ大きくなることも多い

※新しいコンセプトの医療機器では基本特許の位置づけが重要になり得る



事例から学ぶ公正な研究活動



研究公正に関するヒヤリ・ハット集



適正な画像処理方法



ヒヤリハットと不適合事例に学ぶ臨床試験のクオリティマネジメント (日本臨床試験学会協力)

お問い合わせ窓口

全体お問い合わせ窓口

お問い合わせ先一覧

AMEDが実施している事業や、各事業の事務処理、成果情報についての問い合わせや、報道機関向けの問い合わせ窓口など、AMEDの様々な問い合わせ先がまとめて掲載されています。



<https://www.amed.go.jp/contact/index.html>

トップ

お問い合わせ先一覧

※可能な限りメールにてお問い合わせくださいますようお願いいたします。

お問い合わせいただく内容によって担当部署が異なりますので、以下の項目をご参照いただきご連絡ください。

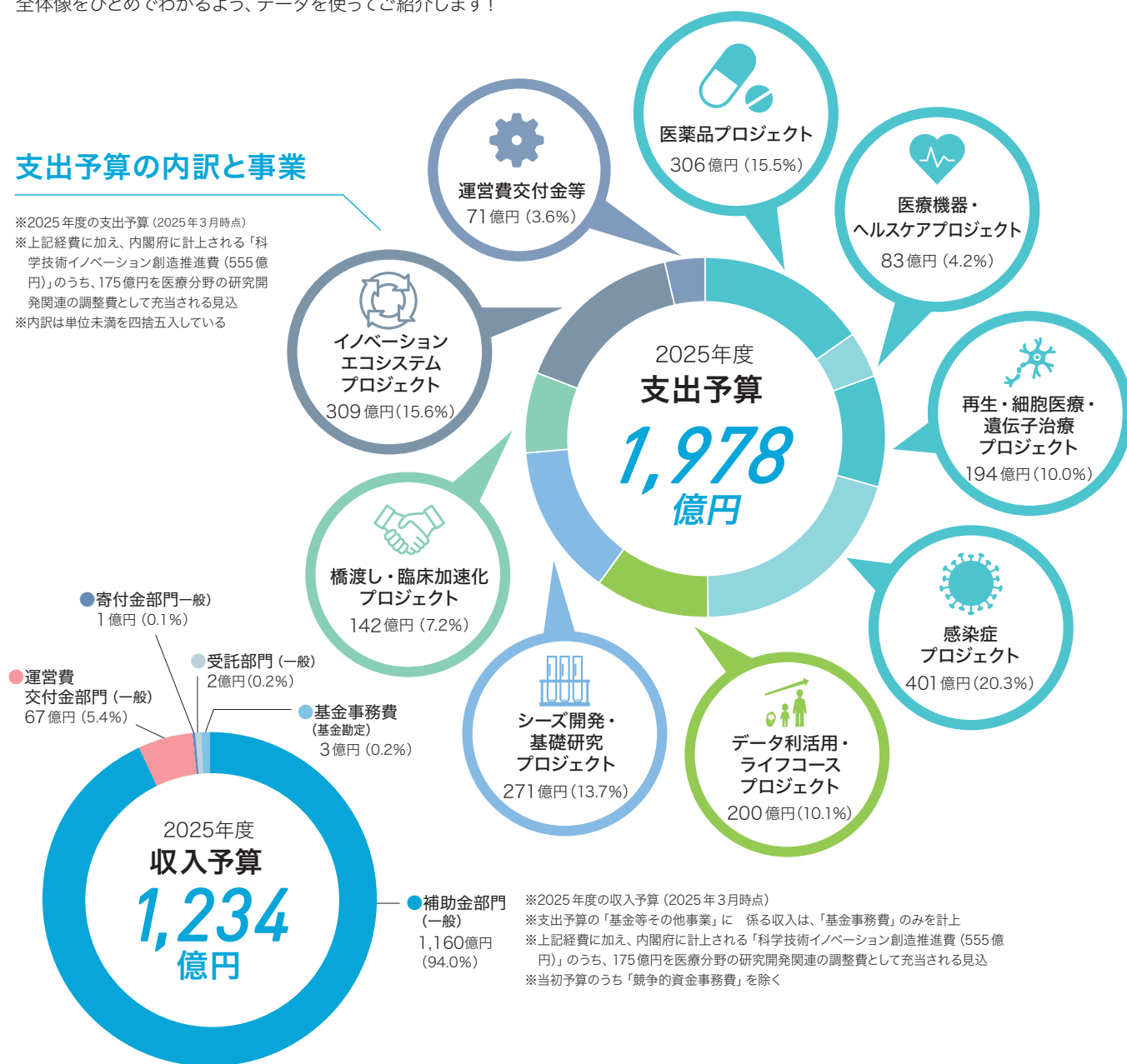
- ▼ AMED事業の公募へ応募を検討している方
- ▼ 支援内容等に関するお問い合わせ
- ▼ 各事業に関する質問
- ▼ 各事業の経理に関する質問
- ▼ 情報分析に関するお問い合わせ
- ▼ AMEDfindに関するお問い合わせ
- ▼ A-POSTに関するお問い合わせ
- ▼ 報道関係の方
- ▼ 講演依頼、執筆依頼、資料転載、パンフレット請求等
- ▼ 研究公正に関するお問い合わせ
- ▼ 知的財産一般に関するお問い合わせ
- ▼ 情報セキュリティに関するお問い合わせ
- ▼ AMED全般
- ▼ その他のお問い合わせ

ひとめでわかる！AMED

AMEDが推進する医療研究開発は多岐にわたるため、AMEDはどんな組織でどんなことをやっているのか、全体像をひとめでわかるよう、データを使ってご紹介します！

支出予算の内訳と事業

※2025年度の支出予算（2025年3月時点）
※上記経費に加え、内閣府に計上される「科学技術イノベーション創造推進費（555億円）」のうち、175億円を医療分野の研究開発関連の調整費として充当される見込
※内訳は単位未満を四捨五入している



設立

2015年(平成27年)4月

2025年度現在で 設立11年目です

役職員数

746名

※2025年1月1日現在
※上記の内、役員4名

評価・運営体制

上記人材を配置し、研究開発課題の評価及び業務運営を進めています
※2025年6月時点

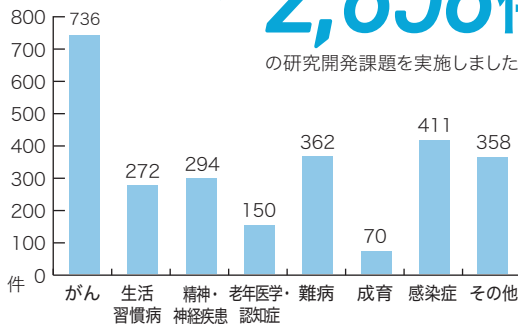


研究開発課題

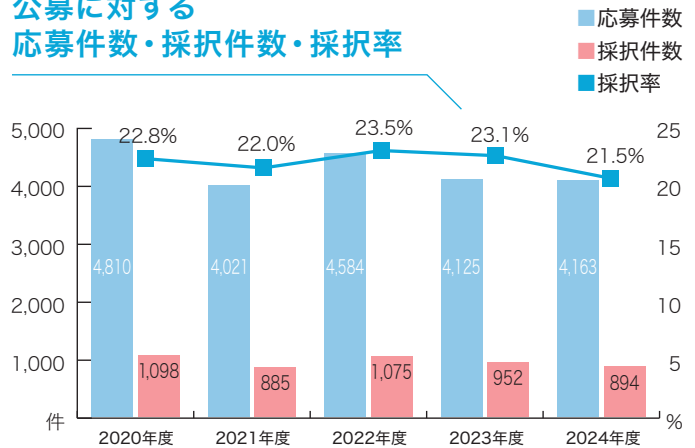
2024年度 基礎から実用化まで

2,656件

の研究開発課題を実施しました

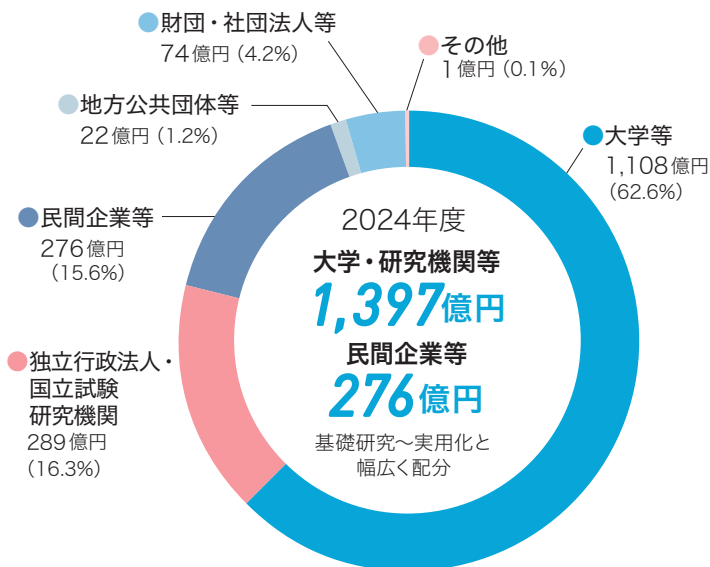


※研究開発課題数は、新規並びに継続分を含む2024年度の実施課題数
 ※2025年7月時点のデータをもとに集計。ただし、医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）を除く
 ※「その他」には、疾患を特定できない基礎的な研究開発課題や、研究基盤・創業基盤整備等の研究開発課題などが含まれる
 ※分類項目が未確定なものを除く

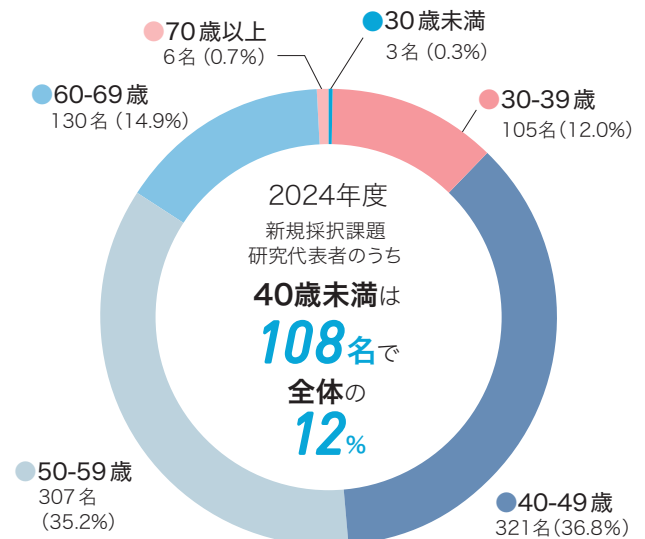
公募に対する
応募件数・採択件数・採択率

2024年度
 応募件数 4,163件
 採択件数 894件
 採択率 21.5%

※2025年7月時点の公募に関するAMED公開情報等をもとに年度ごとに集計
 ※採択率は、各年度の全応募件数に対する全採択件数の割合

研究機関分類別の
研究開発費配分状況

※2025年7月時点のデータをもとに集計。ただし、医療研究開発革新基盤創成事業（CiCLE）を除く
 ※研究開発費は、委託事業または補助事業における契約・交付金額（間接費等を含む年度末の最終契約額）で研究代表者のもとで研究開発の一部を他の研究機関に分担又は再委託されたものを含めた2024年度の研究開発費の総額

新規課題
研究代表者年齢層

※研究開始年度が2024年度である課題の研究代表者延べ人数
 ※年齢は生年月日をもとに、研究開始年度当初の年齢から年齢階級別に集計
 ※2025年7月時点のe-Rad(府省共通研究開発管理システム)データをもとに集計
 ただし、生年月日が不明の者は除く

バイ・ドール報告

2024年度

研究機関からの知財報告
 (発明等の創出・出願・権利化の報告)は

3,274件 ありました

利用者・目的別情報、窓口

AMED事業をご検討の方（公募関連）

公募情報検索ページ

AMEDで実施する公募に関する情報を、分野、開発フェーズ、研究期間など、様々な情報から検索することが可能です。



<https://www.amed.go.jp/search.php>

その他、公募一覧、公募予告、採択情報等は下記のページに掲載されていますので、ぜひご参照ください。



<https://www.amed.go.jp/koubo/index.html>

AMED Research Compass (AReC)

「どの事業に応募すればよいか?」「自分の研究がどの分野に当てはまるのか?」といった相談を一元的にお受けする窓口です。相談の流れ等を記載していますので、ぜひご活用ください。



<https://www.amed.go.jp/contact/arec.html>

AMEDで実施しているスタートアップ支援

AMEDはスタートアップ企業の支援を行うため、様々な支援事業を実施しています。また、AMED以外の政府系スタートアップ支援機関と連携した支援活動も実施しています。



https://www.amed.go.jp/chitekizaisan/start_up_shien.html

AMED事業を実施中の方

事務手続

委託研究開発契約及び補助事業の事務手続について、事務処理説明書・様式集を掲載しています。



<https://www.amed.go.jp/keiri/index.html>

研究開発にあたっての利益相反管理

研究開発の透明性・公正性・信頼性を保つため、研究機関による研究者の利益相反の管理をお願いしています。AMED事業に参加する研究者（研究開発代表者及び分担者）の利益相反の管理及びその報告を行ってください。



https://www.amed.go.jp/kenkyu_kousei/riekisohan_kanri.html

実用化に向けた相談窓口

医療分野の知財相談全般について Medical IP Desk

医療分野の知的財産の保護や活用等に関する相談に、医療分野の知財コンサルタントが、研究成果の実用化を見据えながら、具体的な解決策をアドバイスします。まずは、メールでご連絡ください。

問い合わせ先

AMED実用化推進部 実用化推進・知的財産支援課
Medical IP Desk
E-mail : medicalip@amed.go.jp



https://www.amed.go.jp/chitekizaisan/medical_ip_desk.html

創薬シーズの実用化に向けた相談について 創薬ナビ

大学や公的研究機関で生み出された優れた研究成果（創薬シーズ）の実用化を加速化するため、豊富な経験を持つ創薬事業部の創薬コーディネーターが、創薬研究に取り組む研究者からの様々な相談に応じます。相談方法、申込書等が掲載されていますのでご参照ください。



https://www.amed.go.jp/program/list/11/02/001_01-02.html

情報発信

ウェブサイト

AMEDに関する基本情報や、AMEDが推進している医療研究開発事業のご紹介、公募情報、イベント、プレスリリース、成果情報等、AMEDのあらゆる情報が掲載されています。AMED事業を活用したい方も、最新の医療研究情報を知りたい方も、ぜひご覧ください。



<https://www.amed.go.jp/>



公式X

公募開始や採択結果、イベントのご案内、AMEDからのお知らせなど、AMEDのさまざまな情報や活動を、日々、発信しています。

フォロー
お願いします！



日本語：https://x.com/AMED_officialJP
英語：https://x.com/amed_officialgl

メール配信サービス

公募情報やイベント開催、研究公正に関する取組や、入札等の調達に関する情報など、ご希望に応じた情報を、電子メールにてお送りしています。

配信登録
お願いします！



<https://www.amed.go.jp/pr/mailmagazine.html>

AMEDチャンネル (YouTube)

シンポジウムや報告会の様子、事業の公募や手続に関する説明会など、紙の資料だけではわかりづらい内容について動画でご紹介しています。

チャンネル
登録
お願いします！



<https://www.youtube.com/@amed>



広報ウェブマガジン「AMED Pickup」(note)

今、日本でどのような研究が行われているのか、研究を効果的に進めて実用化につなげるためAMEDはどのような活動をしているのかについて、わかりやすくご紹介しています！

フォロー
お願いします！



<https://amed-gov.note.jp/>





国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

アクセス

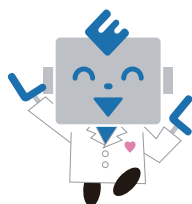


本部

〒100-0004
東京都千代田区大手町1-7-1 読売新聞ビル
Tel : 03-6870-2200 (代表)



<https://www.amed.go.jp>



国内事務所

創薬事業部 東日本統括部

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-5-5
室町ちばぎん三井ビルディング 8F
Tel : 03-3516-6181

創薬事業部 西日本統括部

〒541-0051 大阪府大阪市中央区備後町4-1-3
御堂筋三井ビル 6F
Tel : 06-6121-2806

海外事務所

ワシントンD.C.事務所

1920 L Street, Northwest, Suite 303, Washington, D.C.
20036, U.S.A.
Tel : +1 202-804-4056

ロンドン事務所

3 Waterhouse Square, 138-142 Holborn London,
EC1N 2SW, UK